

事業コード	H17-農-新-3		区 分	国庫補助 県単独
事業名	ほ場整備事業(担い手育成型)実施計画		部局課室名	農林水産部 農山村振興課
事業種別	補助事業		班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855
路線名等	秋田市		担当課長名	佐藤 充
箇所名	左手子地区		担当者名	主幹(兼)班長 佐々木 次郎
総合計画との関連	政策コード	N	政 策 名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興
	施策コード	04	施 策 名	新時代に躍動する多様な農業経営体の育成
	指標コード	05	施策目標(指標)名	ほ場整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H18 ~ H23 (6年)		総事業費	5.6億円	国庫補助率	50%	
事業規模	区画整理A=42ha(戸数28戸)						
事業の立案に至る背景	秋田市雄和地域では、平成9年度から計画的に大区画ほ場整備を推進してきており、本地区はその最後の地区である。周辺地域では、ほ場整備を契機に複合経営が積極的に展開されており、本地区においても事業の導入により営農の効率化を早期に図り、周辺地域と一体となった安定的な複合経営を推進することが早くから要望され事業計画を進めてきたものである。						
事業目的	既存の農業生産法人1組織の経営基盤を強化し、かつ、担い手農家4戸を育成することにより、農地の利用集積を促進し、地区の7割以上の農業経営を担う農業構造を確立する。 雄和地域で最後となる当地区のほ場整備を実施し、周辺地域と一体となった複合経営(ネギ、トウモロコシ、ブロッコリー)を強力に推進する。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
	事業費		556,000	30,000	100,000	350,000	76,000
	経費 内訳	工事費	459,000		80,000	340,000	39,000
		用補費					
		その他	97,000	30,000	20,000	10,000	37,000
	財源 内訳	国庫補助	278,000	15,000	50,000	175,000	38,000
		県 債	119,000	7,000	25,000	87,000	
その他		111,200	6,000	20,000	70,000	15,200	
	一般財源	47,800	2,000	5,000	18,000	22,800	
事業内容			全体実施設計	区画整理工 A=7ha	区画整理工 A=36ha	暗渠排水工 A=42ha	
調査経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年度 基礎調査(調査費4,000千円~県費2,000千円、地元2,000千円)</li> <li>平成17年度 農業農村整備実施計画調査(調査費3,000千円~国費1,500千円、県費600千円、地元900千円)</li> </ul>						
上位計画での位置付け	「新時代に躍動する多様な農業経営体の育成」を支援する事業						
関連プロジェクト等	なし						
事業を取り巻く情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>米価の低迷、転作の拡大、農産物輸入による国産野菜の価格下落等が進展するなか、多様な消費者ニーズに対応した農産物の供給等が求められており、一層の農業生産コストの縮減を図るとともに、地域の担い手を育成し、地域間競争に耐えうる足腰の強い農業生産体制を構築する必要がある。</li> </ul>						
事業効率把握の手法	指 標 名	評価箇所における担い手が経営する面積割合					
	指 標 式	地区内の担い手の経営面積÷ほ場整備地区面積					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	30%		データ等の出典	基盤整備関連経営体育成等促進計画書		
	達成値 b	73%					
達成率 b/a	244%		把握の時期	平成17年 7月			

## 2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	本事業の目的は、基盤整備を契機とした担い手の育成であり、農業県である本県農業の将来を支える農業者の育成は県の積極的かつ主体的な関与が必要である。また、担い手による効率的な営農には、農地の大区画化や農道・用排水路の整備が必要不可欠である。各種アンケートから安全・安心かつ安く新鮮な県産品の消費に対する県民ニーズに応えるためには生産条件の整備、農地集積及び経営規模拡大による生産コスト低減が必要。	18点
緊 急 性	秋田市は雄和地域の約810haを市の高生産性農業区域に位置付けており、市の農業農村整備事業の実施計画を取りまとめた事業管理計画の中で、本地区を最優先事業に位置付けている。 ほ場の営農効率の低さから作業受委託が進んでいないため、ほ場整備済みの周辺地域と一体となった農業振興の支障となっており、早急な整備が求められている。	18点
有 効 性	事業実施により既存の農業生産法人の経営規模を拡大し、併せて担い手農家4戸を育成することは、21総合計画の「新時代に躍動する多様な農業経営体の育成」に合致する。経営規模拡大に伴う営農経費節減と認定農業者への農地利用集積による経営基盤強化。汎用農地を整備し、周辺地域で行われている大豆転作と一体的なブロックローテーションを可能とし、集落営農として実績のある畑作の一層の振興を図る。	20点
効 率 性	○単収増加効果、品質向上効果、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、更新効果等の効果が見込まれ、10aあたり事業費は、県平均単価の160万円を下回っている。 ○設計及び実施時において、画一的な基準にとらわれず、地形条件に応じた区画形状、用排水路の配置など具体的なコスト縮減計画を樹立し、より効率的な事業を実施する。投資効率B/C=1.48。	20点
熟 度	平成12年度に県のアグリチャンピオンで農林水産大臣賞を受賞するなど、畑作振興に関する集落営農の実績があり、受益者全員の同意のもと地域営農のあり方について集落ぐるみで積極的に検討を重ねている。 水稻直播栽培について積極的な検討がなされ、また、地域の環境検討会が組織され環境創造型の水路整備が具体化されるなど、事業推進の熟度は非常に高い。	20点
判 定	ランク ( ) 既存の集落営農による野菜生産組織が主体となり、ほ場整備により創出された労働時間や労働力を活用し、周辺地域と連携した複合経営の推進が図られるなど事業推進の有効性や効率性、熟度が高く、総合的な評価点は最も高くなっている。	96点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 既存の農業生産法人の経営規模拡大と担い手農家の育成により、地域特産の軟白ネギなどの作付面積の増加や水稻直播栽培の計画に基づく周辺地域と一体となった畑作の振興など、積極的な営農展開が期待できることから本事業を実施すべきと考える。	

## 3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定	改善して選定	保留
本事業の実施により、ほ場の大区画化直播栽培による低コスト農業が実現され、また、既存の農業生産法人と新たに育成する担い手農家4戸への農地の利用集積が8割へと大きく進展する。また、地区一帯において、ねぎ・トウモロコシ・ブロッコリーなどの拠点団地を造成することにより収益性の高い農業経営の確立が見込まれることから、本事業の実施は妥当である。			

## 4. 財政課長意見

意見内容	選定	改善して選定	保留
当地区は、畑作振興に関する集落営農の実績があり、周辺地区と一体となり畑作振興を目指すことができ、また、集積率及び生産性の向上の点で高い目標を定めていることから、事業実施は妥当と認められる。ただし、準絶滅危惧種における生態系保全の工法については、可能な限りのコスト縮減を図ること。			

## 5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定	改善して選定	保留
事業の実施は妥当である。			

## 6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該箇所を国に新規要望する。</li> <li>・事業実施に当たっては、コスト縮減に努める。</li> </ul>
---

## 7. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。
------------------

評価種別 新規箇所評価  
適用基準名 ほ場整備事業

事業コード (H17-農-新-3 )  
箇所名 (左手子地区 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性	法令等で県が実施する事業	5	5	要綱・要領
	県関与の必要性	県が実施すべき広域的な事業	3		
		県が実施した方が望ましい事業	1		
	県民のニーズ	一般県民を対象とした調査でニーズが高い	5		
		一般県民を対象とした調査でニーズを把握	3		
		一般県民を対象とした調査を行っていない	1		
	社会経済情勢変化による需要変化	増大している	5		
		特に変化はない	3		
		低下している	1		
	労働生産性の現状	未整理地域である	5		
	10a(一部20a含む)区画であるが、農道の殆どが狭い	3			
	上記以外	1			
	計		20	18	
緊急性	事業未実施の影響				
	周辺への影響	事業効果や効率性、周辺への影響等が大きい	5	5	
		事業効果や効率性、周辺への影響等は小さい	3		
		事業効果や効率性、周辺への影響等はない	1		
	受益者の高齢化状況	60歳以上の耕作者が40%以上であり、後継者不足である	5		
		60歳以上の耕作者が30%以上40%未満であり、後継者不足	3		
		60歳以上の耕作者が30%未満	1		
	排水不良状況	地下水位が非常に高い。(30cm未満)	5		
	地下水位が高い。(30cm以上~50cm未満)	3			
	上記以外	1			
他事業との関連					
他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い	5	3	3	
	関連する他事業性はないが、単独で十分な効果がある	3			
計		20			18
有効性	上位計画への貢献度				
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別のその他関連事業である	1		
	期待される具体的効果				
	大区画化計画	1ha以上の区画が50%以上(中山間の場合、標準区画が30a以上)	5	5	
		1ha以上の区画が35%以上50%未満(中山間の場合、標準区画30a以上)	3		
		1ha以上の区画が25%以上35%未満(中山間の場合、標準区画30a以上)	1		
農地集積計画	認定農業者等担い手への農地集積率が市町村目標より2割以上	5	5		
	認定農業者等担い手への農地集積率が市町村目標以上となる	3			
	上記以外	1			
営農計画	飼料作物の作付が25%以上、又は奨励作物の導入が図られる	5	5		
	飼料作物(麦・大豆等)の作付が地区面積の10%以上25%未満	3			
	飼料作物(麦・大豆等)の作付が地区面積の10%未満	1			
	計		20	20	
効率性	事業の投資効果				
	費用対効果	B/C=1.1以上	5	5	
		B/C=1.1未満	3		
	事業実施コストの縮減				
	コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	5	5	
		具体的な計画はないが、検討中	3		
	事業費単価				
	10a当たり事業費	県平均値より安い	5	5	
	県平均値より高い	3			
基幹水利施設状況					
整備状況	用排水施設とも整備済み	5	5		
	用排水のいずれかの施設を当該事業で整備予定	3			
	用排水施設とも当該事業で整備予定	1			
	計		20	20	
熟度	地元との合意形成の状況				
	同意状況	全員の同意が得られている	5	5	
		未同意者が存在するが、事業実施に支障がない	3		
		未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	1		
	事業推進体制	事業推進体制が整っており、協議を重ねている	5	5	
		事業推進体制が整備されている	3		
		上記以外	1		
	各種協議の進捗状況				
進捗状況	必要な協議を了しており、基本的事項が確認されている	5	5		
	協議中であり、合意が得られる見込み	3			
	未協議	1			
環境との調和への配慮状況					
環境保全への配慮	対策を検討済み	5	5		
	対策を検討中	3			
	計		20	20	
合計			100	96	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		